

第7日

令和8年6月17日（水）

午後3時40分再開

○議長（小島清人君） 休憩前に引き続き会議を開き、一般質問を続行いたします。

次に、1番日野泰信議員の質問を許可します。1番日野泰信議員。

（1番日野泰信君登壇）

○1番（日野泰信君） 皆さん、こんにちは。1番議員の日野泰信です。よろしくお願いいたします。

まず、傍聴にお越しいただきました皆様、そして、インターネットで御視聴いただきありがとうございます皆様、誠にありがとうございます。本日最後の質問者です。あと70分頑張ってお付き合いいただければというふうに思います。よろしくお願いいたします。

まずは、新市長に就任されました中島市長、御就任、誠におめでとうございます。選挙期間、そして就任後も御多忙な毎日であられると思いますが、これからも大変な重責を担われることになりますので、どうか御健康にも御留意いただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

さて、いつものとおり、梅ヶ谷藤太郎のお話をさせていただきたいと思います。

おととい、6月の15日は、第15代横綱初代、梅ヶ谷藤太郎の98回目の命日でした。幕内勝率9割5分、天下無双の大横綱は、引退後も協会役員として国技館の建設や相撲界の近代化を推し進め、発展させました。そして、昭和3年6月15日、家族に見守られながら静かに息を引き取りました。享年83歳でした。

その6年後、昭和9年3月に、藤太郎の弟子であった大濱光三は、原鶴温泉地内に恩師をしのび、記念碑を建てました。場所は、現在の原鶴放水路の中央付近にあったそうです。その後、年月が移るにつれ荒廃し、昭和28年の未曾有の大水害で荒れ果ててしまいました。

昭和33年の暮れ、福岡市で行われた大相撲九州場所の後に原鶴温泉を訪れた、当時の相撲協会理事長、時津風定次、元35代横綱双葉山さんは、藤太郎の記念碑が荒れ果てているのを見て、記念碑の改修、再建を誓います。時津風は東京に帰るや、協会の役員や力士に諮り、国技館改装50周年の記念行事の一つとして、財団法人日本相撲協会の名で横綱梅ヶ谷記念碑の再建を決定いたしました。地元では、この千載一遇の好機に当たり、地元選出国會議員、中島茂喜氏を委員長とする横綱梅ヶ谷記念碑再建委員会を結成いたします。そして、昭和30年11月、原鶴古戦場跡に記念碑は完成しました。

その後、梅ヶ谷公園と名づけられました。これを機に機運が高まり、梅ヶ谷顕彰会設立され、わんぱく相撲なども現在、今はちょっとやめておりますが、開催されているというので現在に至っております。これこそが、中島市長が所信表明の中に書いてある文化事業の振興に当たるのではないかというふうに思います。市長、いかがお思いでしょうか。後で伺います。

相撲という伝統文化に対する先人たちの思いがたくさん詰まった横綱梅ヶ谷記念碑、そして梅ヶ谷公園を大切に、後世に伝えていかなければならないというふうに私は思っております。

今回の一般質問では、中島新市長の所信表明について、質問席より質問させていただきます。よろしくお願いいたします。

(1 番日野泰信君降壇)

○議長(小島清人君) 1 番日野泰信議員。

○1 番(日野泰信君) それでは、通告書に従いまして質問させていただきます。

まず、1 丁目、教育分野についてです。

市長の所信表明の文の中で、3 丁目「女性を応援！就労と子育ての両立を実現！」というところの中に、教育分野ではというところが出てきます。その中で、教育分野では、保護者や教育関係者の声を直接聞く仕組みを整え、外国語指導や英語指導の充実を図るとともに、朝倉市ならではの特色のある環境づくりを進め、朝倉愛を育む取組を図ってまいりますというふうに書いてあります。

先ほど鹿毛議員の質問の中でも出てきましたが、朝倉市ならではの特色のある教育環境というのはどういうものかというふうに、市長、お考えでしょうか。

先ほどは、今既存であつて各地域で行われている特色ある教育環境というところで御回答がありましたけれども、それはあくまで、その地域による教育環境というところになってくると思います。朝倉市ならではのというのは、どういうふうな感じのものかというふうに思われてるのでしょうか。

○議長(小島清人君) 市長。

○市長(中島秀樹君) すみません、同じ答えになってしまうかもしれませんが、グローバルとローカル、グローカルっていうのを考えておりまして、各地域の特色あるローカルの部分ですね。

何回も言いますが、秋月だったら稽古館であつたりとか、三奈木であつたら蜚であつたりとか、そういったものが特色として、私は若い頃に何か思い出になるような、そういった濃密な経験というのが大事だと思っていますので、そういったものを教えてほしいなというふうに思っています。

そして、やはり地元の歴史を知るということは非常に大事なことで、ローカルの部分は各コミュニティという、しっかりした組織が朝倉市にはありますので、それを生かしていただいて、そして今度はグローバルのほうでは、英語教育っていうのをコミュニケーションの道具として身につけていただきたいなと。国際人として通用するような、そういったものを身につけていただきたいなというふうに考えております。

グローカルというのが特色として出していききたいなと思っております。

○議長(小島清人君) 1 番日野議員。

○1番（日野泰信君） 各地域ごとにある特色、それにプラスして英語教育のほうを推進していきたいというのが、朝倉市にとっての特色ある教育環境だというふうに思っているところですね。

英語教育をどういうふうな形で特色あるものにされようと思っているのでしょうか。例えば、今でも英語教育で先進事例っていうのは、たくさんございますよね、ほかの都市、市町村で。

例えば大牟田市さん、平成13年から英語活動取り組んでらっしゃいます。神奈川県大和市、市長自ら主導し、小学校での英語教育に当たる先進の取組をされてらっしゃいます。もう一つ、茨城県境町、ここは全ての小中学校に、平均3人のALTの方を導入されてらっしゃる。授業のときは、担任の先生、プラスALTの方が一緒に担当して、三、四人で生徒の指導してる。

こういうのが特色ある英語教育になってくると思うんですが、どこら辺を考えてらっしゃるのでしょうか。

○議長（小島清人君） 教育長。

○教育長（早野展生君） 具体的に市長が考えてらっしゃいます英語教育というのは、どういうものかということで、私も100%承知しているわけではございませんけども、今、市長が考えてらっしゃる中の一つは、実は小学校の1・2年生で、外国語活動というのが今はございません。ただ、一部の小学校では、やってる小学校も1つございます。

次の学習指導要領、これが小学校では令和12年度から完全実施をされます。その学習指導要領の内容の中に、年間の標準授業時数の弾力化を可能とするという文言が盛り込まれておりまして、その内容を、例えば令和9年度、来年度から令和11年度までを周知、そして移行期間というのが設けられております。令和9年度から令和11年度までを。ということは、令和9年度から令和11年度の間に前倒しをして、この小学校1・2年生に外国語活動をできるというような国全体のシステムになっておりますので、そういったものも選択肢の一つとして考えておる。

あとは内容でございます。いろんなJTEとかを増やすとか、ALTを増やすとか、あとは内容面の部分を今後具体的に具体化させていけたらなというふうに考えております。以上でございます。

○議長（小島清人君） 市長。

○市長（中島秀樹君） 私が考える英語教育というのは、英語がコミュニケーションツールとして使えるようになるには、私は分かりやすく言うと、逆立ちと一緒にのかなと思ってます。

逆立ちというのは、練習をしないとできないもんだと私は思ってます。自然にできる人もいるんでしょうけども、なぜ逆立ちができるか、なぜ逆上がりができるかと言うと、それは練習をしたから。

だから、英語も練習をしないと、ラジオをつけっ放しにして、ただ聞いているだけではできないというふうに考えてます。

私の経験でいくと、やはり英語がある程度コミュニケーションツールとして使えるようになるには、1万時間は必要なかなというふうに考えております。この1万時間というのは、かなりの時間数でありますので、その勉強をするための、やはりモチベーションを保つというのが非常に大事だと思っておりますので、若いときから英語が好きになるような、そういった環境を整えられたらというふうに思っております。

ですから、先ほど言いましたように、ALTであったりして、若いときから英語に親しむという形がいいんじゃないかというふうに考えてます。

それと、もう一つ、じゃあ、私、英語得意ですと。今から10分しゃべりますので聞いてくださいというのではなくて、やはり英語でどういった能力を持っているかという、測る物差しとして、やはり検定試験であったり資格試験がありますので、そういうのを積極的に受けるような、大体英検の2級であつたらどれくらいのレベル、準1級ではどれくらいのレベル、1級であつたらどれくらいのレベルというのが大体分かりますので、そういったのが私は分かりやすい指標になるのではないかなと思っておりますので、モチベーションを保つという意味でも、そういう資格試験に学生の頃からチャレンジしていただくような、そういう生徒さんが増えるような環境を整えたいと考えてます。

○議長（小島清人君） 1番日野議員。

○1番（日野泰信君） 英語を1・2年生から授業していただくという計画のほうもしていただいているということですが、先ほどの境町、ここは1年生のときから週に1時間、3年生は週に2時間、5年生からは週3時間、中学生も他の自治体より1時間英語の時間を多くしているというふうな形で、英語教育に力を入れていらっしゃるというふうな事例があります。

先ほど市長は、ほかのところのまねながら、それよりもいいものにしていこうというお話をされました。こういう例もありますんで、こういうのも参考にされながら、素晴らしい英語教育っていうのを進めていただければなというふうに思います。

英語教育のところがすごい大事だなというふうに思うのは私も思ってるんですが、市長のこのお話の中で、外国語指導っていうのがその前にあります。外国語指導や英語教育。外国語指導っていうところだと考えると、前にも一般質問で質問させていただいたことがありますが、逆に日本に今来ていらっしゃる外国の方々のお子さん、学校に、小学校、中学校に行かれてると思います。

その方たちに対する日本語教育のところです。これもその方たちから見れば外国語教育ですから、そのところはどうかと思います。2025年度の日本語要指導児童の数、日本で8万4,759人いらっしゃるそうです。前の調査からで言うと、10年で倍増していると、人数的には。日本語の支援が必要な児童の数、それがこれだけ増えているというこ

とです。その方たちに対する対応もしていけないかんじゃないかなというふうに思います。

2年、3年前ですか、一般質問で、朝倉市に住んでる日本語教育が必要な児童数は何人ですかというふうにお聞きしました。そのときは11人か14人だったと思います。現在、日本語教育が必要な児童数は何名でいらっしゃいますでしょうか。

○議長（小島清人君） 教育部長。

○教育部長（草場 勉君） 本年、令和8年5月1日現在ですけれども、日本語指導が必要な児童生徒は20名となっております。内訳といたしましては、小学校14名、中学校6名となっている状況でございます。以上です。

○議長（小島清人君） 1 番日野議員。

○1 番（日野泰信君） ありがとうございます。前回お聞きしたときに担当している、日本語指導をしていただいている先生の数をお聞きしましたところ、お一人だということでした。

朝倉市全体の小学校・中学校に1人とか2人ずつ、日本語に対する教育が必要な児童の方がいらっしゃる状態で、1人っていうのはちょっと大変じゃないですかと。これ増やせないんですかっていうふうにお聞きしたところ、生徒数が18人以上にしたら2人に増やしませんよというふうに決まっていますというふうな形で御回答いただいていたと思います。現在の担当の先生の数は何人でしょう。

○議長（小島清人君） 教育部長。

○教育部長（草場 勉君） 現在の日本語指導教員につきましては、以前回答しましたときと同じで1名でございます。

○議長（小島清人君） 1 番日野議員。

○1 番（日野泰信君） 何ででしょう。18名以上になったら2人ですよ。何でなのでしょう。

○議長（小島清人君） 教育長。

○教育長（早野展生君） 県費教職員が1名配属になっておりますけれども、18名を超えたら増えるというように私も聞いて、県の教育委員会のほうに要望をしましたけれども、これはつかなかったです。

なかなか、これは全国的なお話みたいな話で、すぐにはつかないということで、じゃあ、何人になったらつくんだというふうに聞いても、分からないというような感じで、県の教育委員会、県のほうがそういうふうに答えておるところでございますので、ぜひ2人、3人とつけていただきたいんですけれども、現状としてはつかないというところで、非常に困っている状況でもございます。以上です。

○議長（小島清人君） 1 番日野議員。

○1 番（日野泰信君） そういう状況を打破するために、朝倉市独自何か考えていらっしゃるものがあれば、お答えください。

○議長（小島清人君） 教育部長。

○教育部長（草場 勉君） 本年度から行う取組について御報告をさせていただきます。

日本語指導教員、日本語指導が必要な児童生徒が在籍する学校の担当者及び教育委員会におきまして、日本語指導担当者連絡協議会という組織を発足させました。日本語指導を効果的に行うために、指導の進め方や学校の受入れ体制、保護者とのやり取り等について情報交換等を行っております。

また、本年度につきましては、外部講師を招いての研修も計画しているところでございます。

また、併せまして、6月補正に計上をさせていただいておるんですけれども、日本語指導教員のサポートを行う支援員1名の配置を予算計上させていただいております。この支援員が、教材の準備であったり、授業の支援を行う予定ということで考えております。以上です。

○議長（小島清人君） 1番日野議員。

○1番（日野泰信君） サポートの支援員を1名配置していただけるということで、非常にありがたいなというふうには思いますが、それでも10人に1人というふうな感じになってきますよね。なかなか担当されている先生、大変なんじゃないかなと思いますし、日本語が得意ではない子どもたちが勉強するに当たっても、なかなか不便なところが、それではあるんじゃないかなというふうに思います。

市長がおっしゃっている朝倉市ならではの特色のある教育環境をつくる上では、日本の児童たちに対する英語教育っていうのも大事でしょうし、そういう日本に来ていただいている外国の方のお子さんに対する日本語指導っていうのも大事なことじゃないかなと思います。

これ両方していかなと、朝倉市の特色ある教育環境というのは、なっていかなんじゃないかなというふうに思います。

国が2027年からモデル事業に乗り出すものとして、プレクラスっていうのがあるっていうふうに聞いています。外国の方が来日して学校に入るまでの間に、これ今されてるとこ、市町村によって日数違うんですが、10日から3か月、その間はプレクラスというところで一旦お子さんを預かって、そこで平仮名、挨拶の指導、それから給食当番の練習、ラジオ体操、そこら辺のところを基本になるところを、そこでみんなと一緒に教える。それから、各児童が自分が今から行く小学校のところに行くというふうな事業に、2027年からモデル事業の市町村を選定して行うというふうに書いてあります。

これ大事なのは、そういう子たちが本当に危機的な状況のときに、日本語をしゃべれるかどうかになってくると思うんですよね。そこで教えている日本語、サバイバル日本語っていうふうに、今実際されてる、大阪市中央区の小学校では、サバイバル日本語というところで教えている日本語があるそうです。

その中の一つが、おなかが痛いんです。授業中におなか痛くなった。そのとき何て言っているかわかんない。そういう危機的な状況のときに、使える日本語をいち早く教えとくというところで、なるべく早く日本に慣れていただいて、日本の方たちもそれをすぐ手助けできるようにするというところの活動をされるっていうところになってます。

ぜひともこういうのも調べていただいて、よかったら名乗り出ていただいていただければなというふうに思いますが、日本語教育っていうところでは、今ちょっとこのまま市長に聞こうかどうしようかって、ちょっと迷ったんですが、もう一つ、熊本菊陽町、それから熊本県全体ですけれども、日本語教育を底上げして日本語教室っていうのを市町村全部につくろうというところで、熊本県さん、動かれているというみたいです。

それで、菊陽町に関しては、中学校の校内放送が3か国語でされているというふうな形、海外の方もたくさんいらっしゃるっていうところで、こういうのも特色のある英語、教育環境というところになっていくんじゃないでしょうか。

これ、ほかの市町村さんは、どちらかしかしませんから。両方すれば。それは、昨日、市長がおっしゃった、まねの中からもっとよいものをつくっていくというところになってくると思います。いかがお思いでしょうか。

○議長（小島清人君） 市長。

○市長（中島秀樹君） まず、日本語教育の体制のほうなんですけれども、今のままの教室の数では決して十分だとは思っておりません。何とかそこはしたいと思っております。

外国人の児童の生徒の件については、これは全国的な課題だというふうに思っております。ただ、朝倉はまだ菊陽町まではなっていないのかなと思ってますけれども、これは今の時代の流れですので、いずれ朝倉もその必要性には迫られると思っておりますので、誰一人取り残さない教育っていうのを実現するために、何ていうんですか、急激な変化って、やっぱり皆さん好まないでしょうから、保護者や学校の声を聞きながら、日本語指導の体制の在り方を考えていきたいなというふうに思ってます。

ただ、いずれ、今コンビニとかに行きましたら、外国人の方も朝倉でも随分多くなりましたので、この流れというのは必ず来るというふうに考えてます。

次に、今、日野議員のお話を聞いて思ったんですけれども、先ほど私、グローバルっていうことを申し上げさせていただいたんですけれども、じゃあ、例えば秋月で言ったら、秋月中学校の生徒が杉の馬場のことであったりとか、黒門のこととかを英語で説明できたらどんなにすてきだろうなっていうことを思いました。これは秋月というローカルな知識がないと説明ができませんし、英語というグローバルな英語教育という基礎がなければ、しゃべることができませんので、そういったことができたらいいなと思っております。

また、秋月は十分にインバウンドの需要といいますか、魅力がある観光地だというふうに思っておりますので、そこで外国の方が来られて、秋月の生徒の方が英語で案内をできたりとかできれば、もっともっとそれは実践的では素晴らしいではないかというふうに思っ

ております。

また、先ほどから言っておりますように、外国人の生徒さんがクラスに入ってきて、そこでコミュニケーションを英語で取って、お互いにサポートし合えるとか、そういった形をできるのではないかなというふうに思っていますので、日野議員の御提案っていうのは、まねさせていただきたいというふうに考えております。

○議長（小島清人君） 1 番日野議員。

○1 番（日野泰信君） ぜひともよろしくお願いいたします。

その前の分で、保護者や教育関係者の声を直接聞く仕組みを整えるというのがあります。

自分、市長と一番初めにお会いしたのは、もう十数年前になりますね。小学校のPTAの会長を2人とも同じときにしまして、朝倉市の小学校PTA連合会でお会いしました。その次は、中学校のPTA連合会でも一緒だったというふうな感じで、市長とは議員としてのお考え、立場っていうところではなくて、保護者としての立場というところで、ずっとこれまでお付き合いをさせていただいた期間のほうが長いというふうな形です。

そのときにも、会長たちの集まりの中で、いろんな問題事とか悩み、その他のことを市長のほうにお尋ねして、いろんなアドバイスをいただいていたというのを記憶しております。

保護者との声をどうやって聞くのかというところで、その当時も会長と市長の懇談会みたいなのがあったんですが、それ以外にどうするのかというところで、これも御回答があったと思います。出前市長室と同じような形で、これからやっていくということなんで、それをぜひずっと続けていただければなというふうに思います。

今、各議員さんのところに、既に上がっている保護者の声っていうのもありますよね。例えば、市長が議員時代に一生懸命取り組まれたトイレの洋式化ですとか、そういうのも保護者のほうからの声だと思います。体育館の空調に関しても、そうだと思います。これについては明日質問があると思いますので、今日は何も言いませんが、もう一つ、プールの暑さ対策というところも、これから先、必要なところになってくるんじゃないかなと思います。

気象庁が40度以上の日には、酷暑日という名称をつけました。気象庁もその温度になるって思っただけじゃないと、そういう言葉はつけないと思いますから、そういう日が続くような夏になってくると思います。

その中でプール、今の状況で遮熱・遮光に対する対策っていうのはどういうふうにしようとお考えでしょうか。市としての対策っていうのは、これまで何遍も聞いてますんであれですが、市長はどうお考えになられますか。市でもいいですよ。

○議長（小島清人君） 教育部長。

○教育部長（草場 勉君） 市としての対策といいますか、今やっていることについてお答えいたします。

議員が言われますように、杷木小学校では保護者の協力の下、暑さ対策を実施していた

だいております。そのほかの学校でも、プールサイドにテントを張って日陰をつくったり、プールサイドに人工芝を張ったり、スプリンクラーや簡易シャワーを取り付けるなどの工夫をしていただいているところがございます。

今後につきましても、学校との協議の上、対策・支援をしたいというふうに思っておりますけれども、基本的なものにつきましても、気温と水温が合計が65度以上になったらもうプールはしないとか、水筒を必ず持参して休憩をするとか、午前中の涼しい時間にプールをするとか、そういったソフト事業と併せまして、プールの活動をしていくということで考えております。以上です。

○議長（小島清人君） 市長。

○市長（中島秀樹君） まず、出前市長室につきましては、やはり出てきまして、先生の本音なんかを聞きたいというふうに思っております。私は先生という職業は非常に尊い職業で、素晴らしい職業だというふうに思っております。

ただ、残念ながら、今、非常に人気のない職業になっております。応募者が少なく、教員の人手不足というのが叫ばれるような世の中になりましたので、その根底には何があるんだろうということ。また、市として何ができるんだろうかということは探っていきたいというふうに考えてます。

そういった中で、プールのほうなんです、なかなか条件が厳しい面がたくさんあります。例えばプールの掃除の問題であったりとか、それから維持管理の問題、コストがかかるという問題があります。そして、学校の先生の、これ本音の部分といたたらなんですけれども、非常にやっぱプール当番っていうのは命に関わるものなので、非常に神経を使って負担の大きいものであるということも聞きます。

考えてみましたらば、PTAでも私もプール当番っていうのをしたことがあるんですけども、なかなかプール当番って、そういえば保護者の皆様も、したがる方はあんまりいらっしやらなかったなっていうような印象も持っております。

そういった中で、プールという、水泳という日本独自の教育のシステム、これをこれからどういった方向性に持っていくのがいいのかということは、いろいろな意見をまずは聞きまして、そして課題を整理いたしまして、教育部とも話します。

そして、朝倉だけがないっていうわけにはいかないでしょうから、やはり他の自治体等の事例というのも研究しないといけませんので、先ほど言いました杷木のほうでは日よけがあるとかいうことですので、日よけをしてでも、やっぱり続けたほうが良いということであれば、判断をさせていただきたいというふうに思っております。

○議長（小島清人君） 1 番日野議員。

○1 番（日野泰信君） プールの授業というのは、今後、本当にどうしていくかっていうのを真剣に考えていかないといけないところじゃないかなと思います。今の暑さのまんま、子どもたち泳がせるのか。それとも、小学校2校に1 個ぐらいのプールにして、水道代半

分にして、その分屋根をつけるとか、もしくは全部民間に任せる。

いろんなやり方、どれかでから、これから対応していかないかんというふうには思いますので、いろいろ検討のほうをしていただければなというふうに思います。よろしくお願いいたします。

次の質問に移ります。文化事業の振興についてというところでさせていただきます。

市長の所信表明のその他、一番最後のところです。その他朝倉市の強みである、水の清らかさを守る取組、国際交流や文化事業の振興と。ここらについても着実に前に進めますというふうに書いてあります。

そこの中の文化事業の振興についてというところでお聞きします。

現在、文化事業の振興については、どのような事業に取り組んでらっしゃるのでしょうか。

○議長（小島清人君） 教育部長。

○教育部長（草場 勉君） 現在の取組について御報告いたします。

市では、誰もがいつでも参加し、学ぶことができる地域づくり、これを目標に生涯学習、スポーツ、読書、文化芸術活動の推進、そして文化財の保存活用の5つの柱として幅広い事業を展開しているところでございます。

このうち文化芸術分野では、文化団体連合会や自主文化協会と連携いたしまして、質の高い文化講演会、コンサート、舞台公演などを実施しているところでございます。

また、市美術協会と協力いたしまして開催します朝倉市美術展、これにおきましては、絵画や書、工芸、写真など多様な作品を発表する場として長年にわたり親しまれているといった状況でございます。

さらに、これらの事業に加えまして、子どもたちが伝統文化や芸術などに触れまして、地域文化を理解し尊重する心を育むことを目的といたしました伝統芸術体験講座などを実施しているところでございます。以上です。

○議長（小島清人君） 1 番日野議員。

○1 番（日野泰信君） いろんなことをしていただいているような状況なんですが、それでもコロナ禍により、文化活動っていうのは大きく制限されていたというふうに思います。昨年頃からは、徐々に元の姿を取り戻しつつあるように感じています。

こうした状況を踏まえて、現在の文化事業の現状と今後の方向性、今後の方向性のほうを市としてどのように考えているか、見解をお願いします。

○議長（小島清人君） 教育部長。

○教育部長（草場 勉君） 議員言われますように、コロナ後、元の姿に取り戻しているというふうに考えております。

昨年度の市民アンケートによりますと、文化芸術を鑑賞、または活動する機会が十分にあると回答した市民の方が、令和3年度50.9%だったものが、令和6年度には64.4%と

13.5ポイント上昇しているような状況です。

また、市や文化団体等が開催した各種文化芸術活動への参加人数につきましては、令和3年度456人と極端に少なかったんですけども、令和6年度には2万3,241人と大幅に増加している状況でございます。

さらに、文化施設の利用者数ですけども、令和3年度8万5,247人から、令和6年度には20万9,863人へと大幅に増加しておりまして、文化活動への参加意欲が確実に高まっていることが確認できているというところでございます。

これらの状況から、コロナ禍により制限された文化活動は明らかに回復傾向であり、現在、実施している事業についても、一定の満足度が得られているという認識をしているところでございます。

今後につきましては、この回復の流れを確実なものとするため、市民ニーズに的確に把握するとともに、既存事業のブラッシュアップを図りまして、文化芸術に触れる機会のさらなる創出に取り組んでいきたいというふうに思っております。

また併せまして、地域に存在する文化資源を生かした新たな事業の検討も進め、文化振興の一層の充実を図っていきたいというふうに考えております。以上です。

○議長（小島清人君） 1 番日野議員。

○1 番（日野泰信君） ありがとうございます。市民のアンケートで、文化芸術を鑑賞、また活動する機会が十分にあると答えた方が64.4%というのは、とても高い数字なんじゃないかなというふうに思います。参加されている人数も大幅に増えている状況です。

今の段階でも、文化事業の振興というのは、かなりすばらしい成果を上げてらっしゃるんじゃないかなと思うんですが、市長は、これをまた前に進めたいというふうに書かれています。特に進めたい動き、取組んでいるのは何かあられるのでしょうか。

○議長（小島清人君） 市長。

○市長（中島秀樹君） 私は、朝倉というのは文化が非常に盛んな地域だと思っております。ただ、景気の停滞とかそういうのがございまして、少し最近は下火になってしまったのかなというふうに感じております。ですから、市民が文化に対して誇りを持てるような、そういった柱を立てたいというふうに考えています。

昨日もお話をしましたが、私は米沢で甘木盆俄の公演を見まして、本当にすばらしいなと誇らしくもありました。何ていうんですか、皆さんも映像を見たことがあるかもしれませんが、日本の相撲が、あれ、イギリスのロイヤルホールか何かであったことが、公演が行われたことがあるんですけど、ああいう形で私も甘木盆俄っていうのは、甘木でしか見たことがなかったんですけども、初めて市外で見まして、レベルが高いなと。すごいなと。

この伝統っていうのは、すばらしいものがあるから、これがなくなってしまうというのはもったいないなというふうに正直思いまして、非常に浅尾議員が、その運営に対して御

苦勞なさっている話なんかを以前から聞いておりましたので、そういうものはやはり守っていききたいというふうに思っております。

そういった意味で、米沢で、あそこはたくさんホールがいっぱいになるぐらい来てありましたので、朝倉の重要な発信ツールとして、米沢の人たちの印象には強く残ったと思ってます。好印象を持ってもらったと思っておりますので、そういったものの一つの朝倉の資産として、発展をさせていきたいというふうに考えております。

市内には、甘木の連合文化会とか朝倉文化協会、それから杷木文化協会など、地域に文化振興をする団体が熱心に取り組んでいらっしゃいますので、そういった文化祭を開催するなど、市としても応援をしていきたいというふうに考えております。長く続けられるような、そういった応援をしていきたいと思っております。

大切なのは、やはり若い人がそれを引き継いでいただきまして、先ほど終わらせるのはもったいないと言いましたけども、盆俄もしかりなんですけど、やはりバトンをつないでもらう方がいる、火を絶やさないことが私は大事だと思っております。それが朝倉の文化を豊かにして、ひいては朝倉の魅力を高めることにつながるというふうに考えております。

○議長（小島清人君） 1 番日野議員。

○1 番（日野泰信君） 文化芸術の火を絶やさないっていうのは、本当に大事なことだと思います。今ある盆俄もそうですし、いろんな文化を芸術を後世に引き継げられるような活動をしていただければなというふうに思います。

その中で、先ほど市長から相撲のイギリス公演のお話がありました。現在今、フランス公演をしているところですね。

先ほど一番初め、冒頭に触れました梅ヶ谷藤太郎の記念碑のところのお話の中に、地元選出の国会議員、中島茂喜氏が委員長を務めましたよってお話をさせていただきました。おじさんでいらっしゃいますよね。そのときの何かエピソードなり、双葉山さんとの交流があったっていうのもお聞きしておりますが、何かありましたら簡潔に。

○議長（小島清人君） 市長。

○市長（中島秀樹君） そのときの実行委員長ですか、が祖父だったということは、私は実は日野議員から聞くまでは分かりませんが、祖父が相撲が好きだったということと、すみません、これちょっと不確かな情報なんですけれども、双葉山さんが東京農大の御出身で、私の祖父も東京農大だったもんですから、その関係で懇意にさせていただいていたということは何となく覚えております。

ただ、それはちょっと不確かな情報ですので、調べてみないと分からないんですが、相撲に連れて国技館に観に行ったりもしておりましたので。

ただ、日野議員と出会って、梅ヶ谷藤太郎の一般質問で意見を交わすのと、今度、没後100年というのが来る。それから、私がたまたま任期中にそれが来るというのは、何か運命的なものを感じるというのが個人の正直な感想です。

○議長（小島清人君） 1 番日野議員。

○1 番（日野泰信君） そのこのところを今からお聞きしようと思ってました。

当時と今の状況って、すごい似てる状況なんだなっていうふうに調べたら思いました。

そのときの実行委員のメンバーが、地元選出の国会議員、中島茂喜さん、副委員長は福岡県議会での佐藤徳次さんと地元志波選出の県議会議員、森高健一さん、それから甘木の県議会議員、森田欽二さん、そして杷木町長、飯田鉄次さん、その他12名の実行委員やったというところです。

今、市長、中島市長にさせていただきまして、国会議員には栗原代議士、そして県議会には林泰輔県議、中嶋玲子県議、皆、杷木出身のお二人は議員さんというところになってます。

それで国技館ができて50年の記念事業をした。今度、梅ヶ谷藤太郎没後100年、再来年、迎えます。そのときに中島市長の下で、何かしら事業、イベントっていうのが打てるような形になるといいのかなというふうに思っています。

昨年12月に一般質問で、それに合わせて何かイベント的なことを観光面から考えていきたいというふうに回答をいただいておりますが、その後の進展はどんな感じでしょうか。

○議長（小島清人君） 農林商工部長。

○農林商工部長（二宮正義君） 令和7年12月議会では、講演会やPRブースの設置などが考えられますが、第15代横綱初代梅ヶ谷鰻彰会、地元コミュニティなどと協議しながら考えていきたいと回答いたしました。

その後の進展につきましては、まだ御報告できるものはございませんが、引き続き没後100年の節目に向けて実施可能なプランやイベントなど、地元のコミュニティの方々や、梅ヶ谷鰻彰会の皆様とともに考えていきたいと思っております。以上でございます。

○議長（小島清人君） 1 番日野議員。

○1 番（日野泰信君） ぜひともよろしくお願いいたします。

梅ヶ谷鰻彰会のほうは、今年から何か動き出さんといかんじゃないかなというところで、まず九州場所に合わせて、梅ヶ谷藤太郎が所属してました部屋、雷部屋、62年ぶりですかね、に再興して新しくできておりますので、そちらのほうに訪問をしようという予定をしています。

市のほうでも、地元とか鰻彰会とともに行えるプラン、イベント、何かそんなのを考えていただければなというふうに思いますので、ぜひともよろしくお願いいたします。

次の質問に移ります。

豪雨災害からの復旧・復興についてというところでお聞きします。

昨日の石井議員から今日の5人の議員の一般質問、全て災害の話が出てきています。みんながこれだけ取り上げたのは何でだというふうに、市長、思われますか。

○議長（小島清人君） 市長。

○市長（中島秀樹君） 私がやはり何ですか、リーフレットといいますか、それを基に施

政方針を書いているんですけども、それに触れてないから、やはり議員の皆様が戒めていただいているんだというふうに感じております。

○議長（小島清人君） 1 番日野議員。

○1 番（日野泰信君） まさしくそのとおりじゃないかなというふうに思います。

そして、市民の皆さんも分からないですよ。市長が、災害対策は朝倉市の土台であるというふうに思われているっていうのを、昨日、御回答されました。でも、それは、それを聞いた人じゃないと分からない。

でも、それを書いてあれば、みんなが分かったことであるし、これまでみんなが質問せんでもいいところだったんじゃないかなと思います。ぜひとも思ってたっしやることは、ちゃんと表すっていうところをしていただいたほうがいいのかなというふうに思います。

令和5年7月の豪雨で、県の治山堰堤の施設が一部倒壊して、令和6年の9月・10月の大雨で、米の山林道の横の市有地に亀裂が生じました。そちらのこれまでの経緯も含め、県、市、どのような対応をされてきたか、お答えください。

○議長（小島清人君） 農林商工部長。

○農林商工部長（二宮正義君） 朝倉農林事務所におきまして、令和5年7月豪雨で被災した杷木・志波・塚原地区の山腹斜面对策と、土砂等によって破壊された治山堰堤の復旧工事に取り組み、令和7年度に完了したと承知しております。

また、地滑りの事象が見受けられます土地周辺の地質調査も県が行いまして、降雨対策も考慮し、当該地の斜面をモルタル吹きつけで覆う応急対策工事が行われております。

市としましては、朝倉農林事務所と緊密な連携を図り、市有地周辺の地質調査結果の解析を行い、その解析結果に基づき、登頂部の土砂撤去や大型土のうの設置などの必要な対策を一帯的に実施しております。以上でございます。

○議長（小島清人君） 1 番日野議員。

○1 番（日野泰信君） 当該地における今後の対策についてお尋ねします。

○議長（小島清人君） 農林商工部長。

○農林商工部長（二宮正義君） 今後の対策としましては、令和8年度に朝倉農林事務所が、市有地等に鋼管ぐい44本ほどを打ち込むとともに、斜面のモルタル部分に、のり砕工等を行う予定でございます。

市の対策としましては、治山堰堤から尻無川へのつなぎ込み水路の工事を農林課で、今年の来月7月完了を目標に取り組んでおります。

引き続き、県、市で連携を図りまして、役員の方々とも協力をしながら地元への事業周知を行い、当該事業を円滑に取り組んでいきたいと考えております。以上でございます。

○議長（小島清人君） 1 番日野議員。

○1 番（日野泰信君） 県と市の連携が、本当に大事な事業にここはなってくると思いますので、ぜひともよろしく願いいたします。工事場所、それから、その下の水路、道路

のところも連帯的に全部きちんと完了するような形で、円滑に取り組んでいただければなというふうに思います。

この件に関しては、令和6年の12月議会で一般質問で、前市長に御意見をお聞きしております。そのときに前市長から、地滑りの解析の後の対策について、最大限の対策の実施をお願いしたところ、前市長からは万全を尽くすという回答をいただいております。

昨日からの市長の回答で分かっているところではありますが、市長の思いをもう一度聞きたいと思います。今までどおり万全を尽くしていただいて、遅延・遅滞なく工事を進めていただけるっていうところでよろしいでしょうか。

○議長（小島清人君） 市長。

○市長（中島秀樹君） 今後の対策につきましては、解析結果を踏まえて、集落の安全を確保する観点で、登頂部を軽くする坑道工事が完了し、来月下旬頃には、つなぎ込み水路も完成する予定と聞いております。

詳細なボーリング調査の解析を踏まえて、朝倉農林事務所と市が分担して事業を進めておりますが、しっかりとした対策が実施されるよう朝倉農林事務所をお願いしており、市としても万全を尽くしていく考えであります。

○議長（小島清人君） 1 番日野議員。

○1 番（日野泰信君） ありがとうございます。ぜひともしっかりといただければなというふうに思います。

県との連携っていうのが、とても大事になってくると思います。県との連携は、市長、うまく取れてらっしゃいますよね。

○議長（小島清人君） 市長。

○市長（中島秀樹君） 県のそういう部署のほうとは会っておりますし、林県議とも行事のとき等に会いますので、連携はこれから図っていかないといけないというふうに考えております。

いろいろ選挙の結果によりまして影響があるというようなことも聞いておりますので、ここは私の努力の部分で、実績と努力で朝倉市の市民のため、パイプを林市長のときと同様に築いていかないといけないというふうに考えております。

○議長（小島清人君） 1 番日野議員。

○1 番（日野泰信君） 前市長の意思を引き継いでいただくっていうお話も、今日もありました。同じように対応のほうをしていただけますように、よろしく願いいたします。

それでは、最後の質問に移ります。

起業支援についてというところで、起こす業——起業のほうでの質問にさせていただきます。

市長、両支所の空きスペースのところを活用してスタートアップ事業の起業とか、そういうのを支援していければなというところをおっしゃってございました。

今、支所は、それこそ文書の保管庫だったり、林野庁に貸しているところがある。それでも残ってる、空いているところを活用しようという、お考えでいらっしゃるということですかね。

○議長（小島清人君） 市長。

○市長（中島秀樹君） そのとおりです。やはり空きスペースが多くて、遊んでるといいですか、そういうスペースがありますので、そこは何とか活用できないかなと思っております。

○議長（小島清人君） 1 番日野議員。

○1 番（日野泰信君） 空きスペースはやっぱりもったいないんで、ぜひとも活用していただきたいと思います。市内には、それ以外にも公共施設で空いているものってあると思うんですよね。それもやっぱ活用していかないかんじゃないかなっていうふうに思います。

両支所よりも築年数も新しくて、耐震の何かにせないかんとかいうのもないようなところってあると思うんですよね。例えば志波小学校、あと体育館は、体育館の入り口のところが、元コミュニティ事務局の事務所のスペースでした。その横には会議室があって、その間にも、もう一つお部屋があるんですよね。1 つやったかな、2 つやったかな。

もう一つ、体育館との間にも、倉庫として使っていたスペースがあるっていうような形です。体育館もあまり使っていない。もったいなくないかなって思ってるんです。ここも、例えば I T 関連の起業をしたい人が、事務所とかをそこに設けるには、絶好の場所なんじゃないかなというふうに思います。

この前も、グラウンドのところが住宅地になったんで、その道路の認定とかで市長も一緒に行っていただいたらと思いますけれども、元グラウンドやったところは、今、分譲地になっている。

そして、その前には、グリーンコープさんにつくっていただいた、一般社団法人の方が子どもの居場所づくりをしている建物が今月できました。

そのトータルで見たら、ここで起業して仕事しながら、前の住宅地に家を建てて、子どもが前の居場所づくりのところで自由に遊べる。とてもすばらしい立地条件じゃないかなっていうふうに思うんですよ。

こういうのをどんどんアピールしていただいて、ここで起業してみませんかというふうな形で、こちらのほうから P R するっていうような、絶好の場所じゃないかなっていうふうに思うんですが、いかがお思いでしょうか、市長。

○議長（小島清人君） 市長。

○市長（中島秀樹君） 志波の体育館は非常に新しくて、本当にもったいないなと思っております。あれは使い勝手が本当にあって、ニーズが掘り起こせば見つかるんじゃないかなというふうに考えています。

そういった中で、先ほどの旧杷木町役場、朝倉町役場ではないですけど、やっぱり年数がたつと、どうしても古くなってしまいますので、資産価値といいますか、どうしても人氣が落ちてまいります。

そういった中で、志波のほうはまだ比較的新しいですので、アピールすればチャンスは十分あると思います。そして、までらぼけっともできましたので、話題性もあると思いますので、そのところは市のほうとしても努力をするといいますか、スタートアップであったりとか、移住・定住のツールとして、分譲も今度は市全体に声をかけていくということですので、進めていきたいというふうに考えております。

○議長（小島清人君） 1 番日野議員。

○1 番（日野泰信君） ぜひともあそこも有効活用していただいて、あそこにスタートアップの企業の方が来ていただいて、あそこで事業を始められる。

そうしましたら、あそこで志波は「志波の市」収穫祭っていうお祭りもしてます。そういうときとかも一緒に、そこで会社を起こされた方も一緒になってお祭りに参加する。そういうふうなまちぐるみのお付き合いっていうのも、できるような形になってくると思うんですよね。

とてもいい場所だと思います。ぜひとも、このまま空き家にしてほっとくのはもったいない。空き家にしとったら、すぐ古くなってしまいうっていうのは、どこのおうちもそうなので、そういうことにならないように、ぜひとも有効活用をしていただきたいというふうに思います。よろしくお願いいたします。

市長と私議員は、両輪のところで、2つの力で前に進めていかないといけないところだっているふうに思っています。その中で、いいことはいい、悪いことは悪いって、ちゃんと言い合える、そういう仲で、今後とも市、市政、それから、市民のために前へ向かうという意識でやっていきたいというふうに思いますので、今後ともよろしくお願いいたします。

これで、私の一般質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。

○議長（小島清人君） 1 番日野泰信議員の質問は終わりました。

以上で、本日の日程は全部終了いたしました。

次の本会議は明日18日午前9時30分から行い、一般質問を続行いたします。

本日はこれにて散会いたします。お疲れさまでした。

午後4時48分散会